

第13回(令和5年度第1回)東京女子医科大学病院医療安全監査 議事要録

日時 : 2023(令和5)年9月14日(木) 14:00~16:00

場所 : 総合外来センター5階大会議室 (Host: 東京女子医科大学病院)

監査委員:(敬称略)

委員長 小川 秀興 (学校法人 順天堂 理事長) (A)

委員 小林 弘幸 (順天堂大学 大学院医学研究科病院管理学 教授) (A)

委員 秋山 一弘 (秋法律事務所 本学監事) (B)

委員 小海 正勝 (高田・小海法律事務所 本学顧問弁護士(医療分野専門)) (B)

委員 浜田 健一郎 (元NHK 経営委員長・元ANA 総合研究所会長
一般社団法人 北前船交流拡大機構 理事長) (C)

委員 中村 芳夫 (日本心臓財団代表理事) (C)

委員 坂東 真理子 (学校法人 昭和女子大学 総長) (C)

委員 岩田 喜美枝 (東京都監査委員) (C)

A: 医療に係る安全管理に関する識見を有する者

B: 法律に関する識見を有する者

C: 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

監査内容:

1. 前回までの監査内容の検証について

- (1) インフォームドコンセントに関して
- (2) インシデント/アクシデント報告の現状について
- (3) アレルギー情報の入力状況とその改善について
- (4) 院内急変の対応と対策について

2. その他事項

- (1) 患者相談窓口 患者からのクレームや要望など、患者からの訴えを拾い上げるシステム、関連部署への周知、および患者へのフィードバックについて
- (2) 医療事故調査制度関連
これまでの医療事故調査制度への届け出例について
- (3) 個人情報関連
個人情報保護に関する取り組み、個人情報漏洩時の報告体制について

3. 前回以降に取り組まれた課題、その他(病院でのアピール点、取り組みなど)

- (1) 医療機器教育研修部会の取り組み

- (2) 転倒・転落対応部会の取り組み 2022 年度の取り組み
- (3) 新部会の設置 医療安全データ 分析と活用部会
- (4) 医療安全啓発センターについて

監査委員による講評

- 1) 高難度新規医療技術に関しては、承諾システムというのはどこの病院でもあると思うが、検証という部分が欠如していることが多い。高難度新規医療技術を認めた後の検証をもしやっていないければ、ぜひやってほしい。
- 2) 外部監査委員会の委員会のメンバーについて、外部委員だけで開催するか、内部委員を含めて開催するかメリットデメリットを鑑み、検討してほしい。
- 3) 大学病院なので、患者は最後の砦として来院する。しかも他では治らないような難しい病気の方が来院する。大学病院も得意分野と不得意分野があるので、全部受ける入れることは難しい。自分のところでできないものを引き受けてはいけない面もある。その来院した患者を最終的に引き受けるかどうかの判断を、担当になった医師の判断か、病院全体で判断するのか、という問題が生じる場合がある。それが医療安全啓発センターの役目かもしれないが、この点は重要な問題と考えている。
- 4) 資料が非常に読みやすくなった。インシデントの初期研修医の報告について、初期研修医に義務付けるまでの体制としたことは本当によかったと思う。
インフォームドコンセントの件で、説明の内容がどれだけわかりやすく伝えられているかが大切である。その内容についても引き続き患者がわかりやすく理解できるように心がけて進めてほしい。
- 5) 院内の医療安全に関する情報をいかに共有するかが課題であると思う。
- 6) 看護師の IC 同席率が上がってきている。これは本当に相当な努力をされたと思う。医療安全確保のためにはぜひこの同席率を 100%に上げるように努めてほしい。さらに、患者からのフィードバックを得やすいような工夫をしてほしい。
医師の働き方改革について、医師の数が減っているという説明があったが、医師の過労度の問題と医療の確保、安全の確保ということ。このために医師の働き方改革を進める雰囲気をつくってほしい。
- 7) 法人としても、そして病院としても過去 2 回の大きな医療事故を風化させてはいけないという強い思いでこの監査委員会の仕組みをつくって動かしていることがよくわかった。今日の資料のつくりを見ても、過去に出された意見に対して病院としてどのように対応してきたかということを書きやデータを添えて説明して、それをこの場でまた皆で議論するという形式もよいと思う。また、病院のアピールについて報告があってよかった。そういうアピールを、もっと患者に届くようにするとよいと思う。
医師の働き方改革について今日説明があったが、それでよしとするのではなく、重要なテーマについては何度も資料に基づいて議論を重ねていくということが必要であると思うので、議論を重ねていくことができるような運営をしてほしい。

- 8) 安全の確保について、今後はシステムをつくってほしい。業務を仕分けして、できるだけ専門職の職員が専門職に集中できるような仕組みもぜひつくってほしい。今後チーム医療と、チーム医療の専門職をマネジメントとサポートする仕組みも必要だと思うので検討してほしい。

患者の意見をできるだけ聞かなければならないということもあるが、一方でカスタマーハラスメントや、その知識が十分でないということもあると思うので、お互いにインフォームできるとよいと思う。また、できるだけ素人にもわかりやすい言葉で伝えてほしい。

- 9) この論議は現状を把握し、さらなる改善に向かい、またジェネレーションについて考えて、常に医療機関の参考人や大学の人々に教育をして素晴らしい人材を生み出していく役割を図っていく。

標準化されたレベルの医療をいかに優しく一般の人に理解させ、患者を増やしていくのか、さらに大切なことは、実際の実務をやりながらほとんど知識のない若者をいかに育成していくのか、この責任の分担と教育のシステムを見直していくことである。これらを見直すことは、日本の医療機関、特に教育という名のつく大学の必須の課題だと考える。これを極めてよいチャンスとして、一步踏み出して前に進んでいくことを評価委員長として強く依頼したい。今日の監査委員は専門性がバランスよく入っていて感心した。引き続き皆で考える会を開催してほしい。

以上